SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

厳しさは厳しさとして (世界の社長の景況感)

「中堅企業経営者の景況感 日本が4年連続最下位」という見出しに引かれてその小さな記事に目を通したのは2月3日、節分の日でした。その記事は、中堅企業経営者の景況感を世界同時に調査している国際会計事務所グループ:グラント・ソントンという組織が昨年10月調査したものを紹介したものでした。記事によれば、最も悲観的な見方をしているのは日本の経営者であり、しかも毎年そうであるということでした。気になったので記事の元となった公表文を探してみました。

それは「第8回 中堅企業経営者『景況感』意識調査」と題されたレポートでした。その「景況感比較」を昨年発表分と合わせ作成したのが下表です。下表の数値は、世界36ヶ国7,400名の経営トップからの回答を各国別(日本は298名の由)に集計、「景気が良い」との回答比率から「景気が悪い」との回答比率を差し引いた数値(DI)を表しています。先ずは下表ご覧下さい。

(ロエ)を祝しているす。元すは「祝こ見」でい。					
	06年	07年	08年	09 年	10年
インド	93	97	95	83	84
オーストラリア	64	62	67	11	79
ላ゛ トナム			87	31	72
ブラシ ル		47	69	50	71
香港	61	69	81	-49	64
カナタ゛	57	60	41	3	62
シンカ゛ホ゜ール	64	84	84	11	62
中国	79	86	78	30	60
南アフリカ	80	74	75	35	60
F 1'Y	41	66	67	-3	38
アルセ・ンチン	62	68	39	-57	31
台湾	-19	-3	-9	-50	23
米国	32	14	22	-34	20
英国	8	43	10	-47	16
タイ	9	30	-30	-63	12
ロシア	21	57	58	-2	10
イタリア	-8	21	0	-45	9
フランス	1	30	35	-60	-13
日本	-18	-5	-49	-85	-72
36 国平均	39	45	40	-16	24

(斜線はデータ調査無、網掛けはマイナス)

09年はリーマンショックの影響を受け、多くの国で「・」に陥っていますが、日本は5年間ずっと「・」であることが目立ちます。元々慎重で、どちらかというと悲観的見通しを持って経営にあ

たる傾向のある社長が多いのが日本の特色だとは 思いますが、世界とあまりにもかけ離れているこ とに一寸ショックを感じました。

「DI=0」は良悪が半々です。インドの84という数値は、92%が良いと答え8%が悪いと答えている、という数値を意味します。凄いですね、昨年後半の時点で、殆どの経営者が景気は良いと感じているのです。日本は逆です。景気が良いと感じている経営者はたった14%に過ぎません。これが現実です。

調査結果を受けて、日本大学稲葉教授は「日本 の数値が悲観的なのは毎年のことだが、今年は特 に逼塞感と手詰まり感が強い。人口減で国内市場 の縮小は明らかなのだから、何らかの前向きな手 を打たなければならないのに、相変わらず人員削 減ばかりで次の一手が見えてこない。数年前は、 景況感は悲観的でも設備投資や研究開発では多少 の力強さが見えていたが、今年は設備投資や研究 開発でも遅れをとっている。デフレの顕在化は、 資金繰りを直撃し、経営者の気持ちを萎えさせて いる。(略)しかし、本来なら近年の成長センタ ーである中国やインドにも近いのだから、地の利 を生かして前向きな施策を講じることもできるは ずだ。いずれにしても、本来は経済成長の担い手 である中堅・中小企業の経営者のこの弱気は深刻 だ」と総括しています。私たちも「深刻」に受け 止めなければいけないように思うのですが、どう でしょうか。

ご承知のように、稲盛和夫氏が再建を託されて 日航の会長に就任しました。会長就任要請が伝わった時、77歳の稲盛さんにお出まし願わなけれ ばならない所に日本の悲しい現実があるように思ったのは多分私だけではないでしょう。稲盛さん は「お国のために最後のひと汗を」と晩節を汚す ことも覚悟の上で引き受けたのだと思いますが、 後続世代としては何と云っていいかわかりません。

そういえば、晩年、第二次臨調会長を務めた土 光敏夫氏は、80歳を過ぎても送迎車を使わずバスと電車で通い続け、「問題は能力の限界ではなく、執念の欠如である」と職員を叱咤激励したと云います。昔の人は凄かった、最近つくづくそう思います。楽観も悲観も紙一重かもしれませんが、学者先生に「この弱気は深刻だ」等と云われて返す言葉がないのは淋しい限りです。

発信日:2010.2.13 第604号